

グループC「スペイン」(仮)

アキト(ヨシヒロ) 画商見習い
ナツミ(ハルナ) ハセオ・カブトの妻
シオリ(アカリ) アヤナの中学時代の友達
トモカ(トモカ) メグの母親
カブト(カブト) 画家
カズキ(ハヤト) 芸大生

スペインの田舎町

海に見える高台にある道にベンチがある。そのベンチで絵を描く人が一人(トモカ)

そこに下手から大荷物を抱えた日本人の男(カズキ)が歩いてくる。

カズキ オラ!

トモカ オラ!

カズキ あ・・あれ?もしかして日本の方ですか?

トモカ あら、日本人?

カズキ あ、こんにちは。

トモカ こんにちは。

カズキ わー良かった!迷ったかと思って引き返そうと思ってたんですよ。

トモカ 観光地に行きたいなら、引き返した方がいいんじゃない?

カズキ あいえいえ、違うんです。ギャラリーを探してて。

トモカ ギャラリー?

カズキ あ、この方のなんですけど。

と言って、画集を取り出す。

カズキ ハセオ・カブトさんのギャラリーです。あのこのあたりだと思っんですけど
知りませんか?

トモカ 知ってるわよ。

カズキ 本当ですか?

トモカ 嘘はつかないわよ。

カズキ いや、よかったなあ、ここで日本の方に出会えるなんて、おれ運がいいんだな。

トモカ この先、100メートルいったところに、レンガ造りの小さな家があるの。そこよ。

カズキ あ、ありがとうございます！

トモカ いいえ、どういたしまして。

カズキ あ、あなたも絵、お描きになるんですか？

トモカ あ、そうね、これは・・・ただのスケッチよ。手紙でも書くこうと思って。

カズキ 僕も、絵描いてるんです。僕は油絵で。

トモカ あら、そう。

カズキ でも、日本で、このハセオの画集に出会って・・・

トモカ 衝撃を受けた？

カズキ あ！そうなんです！なんなんだ！この人は！！って。

トモカ それで、ここまで来ちゃったの？

カズキ そうです！なんでわかるんですか？

トモカ 見ればわかるわよ。

とってトモカ、カズキの大荷物を眺める。

トモカ 案内しよっか？

カズキ え？いいんですか？

トモカ 私もそろそろ戻らなくちゃって思ってたの。

カズキ あ、このこちらにお住まいなんですか？

トモカ そうよ。

と言ってトモカ自分の荷物を片付ける。

トモカ もうこっちに来て3年になるかしら。

カズキ へえ。

トモカ 私も、あなたと同じ、ハセオの絵に惚れてここまできちゃったのよ。

カズキ え、じゃあ戻って、ギャラリーに？

トモカ そ。

トモカ、荷物が整い、

トモカ　少し下り坂だから、その荷物気をつけてね。

とカズキの大荷物をまた眺め、そして上手のほうへ歩き出す。

カズキ　あ、あっちゃよっと待ってください！

暗転

ハセオ・カブトのギャラリーの中

ここは、アトリエ兼ギャラリーとなっており、中は雑然としている。

ハセオ・カブトと若い男が奥のほうでなにやら深刻な話をしている。

カブト　いや、それはできないな

アキト　・・・ですが、私はぜひあなたの作品を日本の多くの人に見ていただきたいのです。

カブト　私は、日本を出た人間だ。

アキト　はい、それはもうわかっています。そこを・

カブト　じゃああなたにも言うことはない。

アキト　いや、ですがあなたの作品は絶対に売れます。それも高値で。それを私はお手伝いしたいのです。

カブト　やはり、「金」じゃないか・・・

アキト　いや、わたしは、ただあなたの作品で多くの人を幸せにしてあげたい、ただそれだけなんです。

カブト　きれいごとを言わないでほしいな。

アキト　・・・

カブト　もう帰ってくれないか。

アキト　・・・わかりました・・・また来ます。

アキト、上手に去る。とそこへすれ違いにカズキとトモカが入ってくる。カブトは下手へ去る

トモカ、アキトが挨拶もせず出て行ったことを気にする。

カズキ うわく・・・すごい。やっぱりすごいな・・・

といいながらカズキは、雑然と置いてある作品をひとつひとつじっくりと見ていく。

トモカ ゆっくり見ていくといいわ。私は仕事があるから、そこにいるわね。

といって片隅の机を指差し、机へ向かう。

カズキ あ、ありがとうございます。

しばらく静かな時間が流れる。

上手からナツミ（カブトの妻）が来る。

ナツミ あら、お客さん？

トモカ あ、そうなんです。日本から。カブトさんの作品に感動して、思い立ってここ
まで来ちゃったんだそうです。

ナツミ まあ、あなたみたいじゃない。

といって笑う。

ナツミ あ、それより、さつきもう一人日本から来ていた人がいるでしょう？あの方は
どうしたかしら。

トモカ さつき出て行きましたけど。どうかしたんですか？

ナツミ いや、そうねまあいろいろとね。ちょっと探してくるわね。ここお願い。

といってナツミ、上手のほうに行く。ナツミ、カズキに

ナツミ ゆっくりしていたださいね。

カズキ あ、はいありがとうございます。

ナツミ、上手に去る。

カズキ 今の人は？

トモカ 奥さまよ。カブトさんの。

カズキ あ、カブトさんって日本人と結婚してるんですね〜

トモカ なによ

カズキ いや、意外だなんて。

トモカ 意外？

カズキ 作品見てると、なんかわかんないけど「日本」なんか超えちゃってるというか。

トモカ ふ〜ん

カズキ 日本にはおさまりきらないというか。

トモカ まあ、だからここ（スペイン）にいるんじゃない？

カズキ あ、そうか。

トモカ で、日本人と結婚したらおかしいの？

カズキ いや、おかしくはないけど・・・

トモカ なんなのよ。

カズキ いや、なんでもないです・・・

トモカ ・・・・

カズキ、また作品をじっくりと見てまわる。

トモカ、机でなにか書きものをしている。

そこへ、上手からシオリが入ってくる。

シオリ ただいま戻りました〜

トモカ あらおかえり。

シオリ トモカさん、この人なんですか？

トモカ あっ名前聞いてなかったわね。名前は？

カズキ あ、俺ですか？俺は、加藤カズキです。芸大の4年で油絵をやっています。

トモカ だって。シオリちゃん。

カズキ どうもこんにちは〜

シオリ こんにちは。私、奥で作業しています。

とって、シオリ下手に去る。

カズキ 今のは？え！娘さん？

トモカ 違うわよ

カズキ ですよね

トモカ ここで絵の勉強してるの。

カズキ へえ！まだ、若そうですね。高校生ぐらいじゃないですか？

トモカ そうよ、彼女中学卒業してすぐにここに来たの。ここに来てまだ1年ちょっとじゃないかしら。

カズキ へえ！彼女もやっぱりハセオさんの絵に惚れ込んで？来ちゃったんですか。

トモカ 中学生が絵に惚れ込んでスペインまで一人で来ちゃうと思う？

カズキ あ、そうか。そう簡単に来れないですよね。

トモカ たまたま親戚の方がこの村に住んでて、そこに今彼女は住んでるのよ。

カズキ はあくそうなんですか？

トモカ で、君はどうするの？

カズキ え？

トモカ え？じゃないわよ。ここに来たのには、なにか目的があったんじゃないの？

カズキ あ、それは・・・ありますよ。

トモカ そうよね、きつと一大決心のはずよね。その大荷物だものね。

とそこへ、シオリが下手から来る。

シオリ トモカさん、ハセオさんが呼んでます。

トモカ あ、わかった。ありがとう。今行くわね。

とって、トモカ下手に去る。

シオリ、ギャラリに残る。所在なさげにしている。

カズキ ・・シオリちゃん？だっけ。

シオリ ・・そうですけど。

カズキ シオリちゃんは、ハセオさんの絵が好き？

シオリ ・・・そうですね・・・ハセオさんの絵には、・・・パワーがあると思います。

カズキ パワー？

シオリ 全てを忘れさせてくれる・・・

シオリ　はこの先どうするのか、急に先が見えなくなった気がしてね・
カズキ　ここにきて、どうするかって？それがわからないから、ここに来たんだよね。

とそこに、下手からトモカが来る。

トモカ　シオリちゃん、ハセオさんの新しい作品が完成したって。おじさんに伝えてく

れる？で村の人たちにも伝えてほしいって。

シオリ　わあ、ほんとですか？じゃあ今すぐに！

トモカ　お願いね

シオリ　じゃあ行ってきました！

と、シオリ上手に去る

カズキ　ハセオさんの新作ですか？

トモカ　そうよ。久しぶりに大作だったから、いつ完成するのか・・・心配だったけど。

カズキ　おれも見せてもらえるんですか？

トモカ　もちろん。

カズキ　うわーいや、でもな心の準備が・

トモカ　なんで心の準備が必要なのよ。

と言ってトモカ笑う

トモカ　まあでも、そうよね、制作に2年ぐらいかかっているんだもの。この作品は心して見ないといけないわね。

カズキ　2年ですか？

トモカ　そう。あく娘にも見せてやりたい。

カズキ　娘？あ娘さんいらっしやるんですか。ここに呼べばいいじゃないですか？

トモカ　そう簡単に呼べないのよ。日本にいるんだから。

カズキ　日本？えーじゃあ離れて暮らしてるんですか？さみしいですね。

トモカ　・・・

カズキ　娘さんおいくつですか？

トモカ　確かシオリちゃんと同じ歳ね。

カズキ ……

トモカ なんか、シオリちゃんや、まああなたみたいに、日本からくる若い子を見てると、私の決断が揺らいできちゃうわ。

トモカ、なにか考え込んでいる様子

カズキ ……

トモカ でも、私の人生は、今ここにある。それをあの子にちゃんと伝えなきゃいけないのね。

と、トモカ独り言のように言う

カズキ あ、あの・

トモカ あ、そうだ、今日の夜、村の人たちを招いて完成披露パーティをするの。私もちよつと出るわね。買出しとか、いろいろ準備があるから。

カズキ はあ

トモカ あなた、先に作品を見るといいわ。いいときに来たわね。奥がアトリエだから、行ってみなさいよ。ハセオさんには少しあなたの話、しておいたから。

カズキ ありがとうございます。

トモカ じゃまた、あとで

と言って、トモカはバッグを持って上手に去る

一人残されたカズキ、中央で一呼吸置いてから、下手のハセオのアトリエに向かう。

暗転

ギヤラリー中央のイスにカズキがうつむいて座っている。隣の部屋からはパーティのがやがやした音が聞こえてくる。

とそこへ、下手からハセオが登場

それに気づくカズキ

カズキ あ、ハセオさん。

と言ってカズキ立ち上がる

カズキ ああの、新作、すごいです。ほんとなんか・・ありがとうございます。

と言ってカズキ、ハセオに深々と頭を下げる。そのまま、いつまでたっても頭を上げない。

と、そのうちカズキそのまま座り込む。

ハセオ 君は、日本からきた芸大生だったね。油絵をやっているのだろうか？

カズキ ・・そうです。ずっと絵ばかり描いてきました。ハセオさんの絵には、なにか、うまく言葉にはできないんだけどすごく心を打たれるというか、身体の奥の方がこう・・熱くなるというか・・とにかくガツンと来るんです。新作にも打ちのめされました。はは・・

ハセオ ・・・・

カズキ でも、同時に悔しいんです。ご本人にこんなこというのもおかしいんですけど。

ハセオ うん・・・

カズキ おれ、絵が描けなくなって・・この先、おれはどうするんだ？っていうあせりとか、描けないっていうもどかしさとか、もうこう頭の中がぐちゃぐちゃになっって・・・

ハセオ 君は、絵を描きたいんだね。

カズキ ・・・・・はい・・・

カズキ、その言葉にハッとす。

ハセオ 描きたいなら、描けばいい。少なくともぼくは、描くことしかできない。だから、それに全力を尽くす、ただそれだけなんだ。

カズキ ・・・・・

ハセオ 君には君の、描くものがあって、それは君にしかできないことかもしれない。それがどんなものなのか・・それは誰にもわからないね。

カズキ ・・・・・

ハセオ さあ、せっかくだから、パーティー楽しんでいってよ。ワインでも飲もう。

カズキ ・・・・・あ、ありがとうございます！

と言ってカズキ、また深々と頭を下げる

ハセオ、下手へ。カズキ頭を上げて、何か決意をしたようである。

暗転

日本 (グループBの続き)

喫茶店から走って出てきたタカコが上手から登場。タカコが中央に来たところで、追いかけてきたカズキ、タカコに追いつく。

カズキ タカコ！

と言って、カズキはタカコの腕をつかむ。タカコ、カズキの手を振りほどく。

タカコ、カズキに背を向けたまま

タカコ すごい心配してたのに、なにその態度！なにも言わないで急にいなくなつて・・・
カズキ ...ごめん！

タカコ、やけになつて

タカコ 私、カズキからもらった指輪もなくしちゃつて、もう本当にカズキがどこかに
行っちゃつて、もう会えないんじゃないかって・・・

カズキ、今度はそつと、タカコの手をとる。タカコはカズキの方を見る。

カズキ ほんとにごめん。おれ、そんなにタカコが心配してくれてるなんて思わなかつ
た。おれ、自分のことしか考えてなかった。ほんとにごめん。

タカコ ...

カズキ おれ、もう大学4年だからさ、この先どうするか・・・悩んでたんだ・・・で、ち
よつと旅にね。行つてましたごめんささい。行き先も告げずに行つてしまつて。

タカコ ほんと

カズキ これからは、ちゃんと、話します。だから、これからも一緒にいてく・・・

とそこに、上手からヨシヒロが来る。

ヨシヒロ タカコちゃん！

タカコ ヨシヒロくん！

ヨシヒロ タカコちゃん！指輪！見つかったって！！

タカコ え？

ヨシヒロ

今、おれの友達からメールきて・・なんか今学校でちょっとした騒ぎになってるんだって。なんかよくわからないけど、ブログがなんとか、とか。いや、2年生のあるクラスで指輪が見つかって、で、それは、何日か前の雨の日に見つけた指輪のはずだって。なんでそれがわかったのかはよくわからないんだけど。まあとりあえず、一緒に探してくれた友達からのメールだから。タカコちゃんのだと、思うよ。

ヨシヒロ、一呼吸置いてから

ヨシヒロ はあくよかったよかった。あ？あ・・タカコちゃん学校今から戻る？

タカコ うん。ヨシヒロくんありがとう。

カズキ、ちよつとふてくされて

カズキ タカコ、おれあの喫茶店に戻ってるよ。待ってるから。

タカコ あ、うん。

ヨシヒロ じゃ、行こう！

タカコとヨシヒロは足早に上手に去る。

残されたカズキ、舞台中央で立ち止まり2人の去った方をみている。

音楽

暗転

おわり